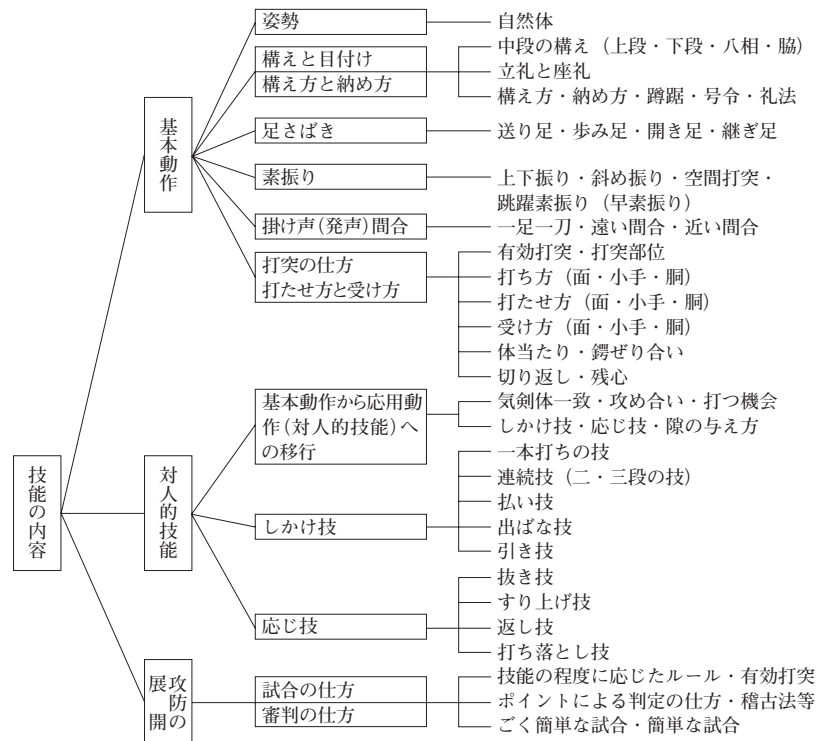
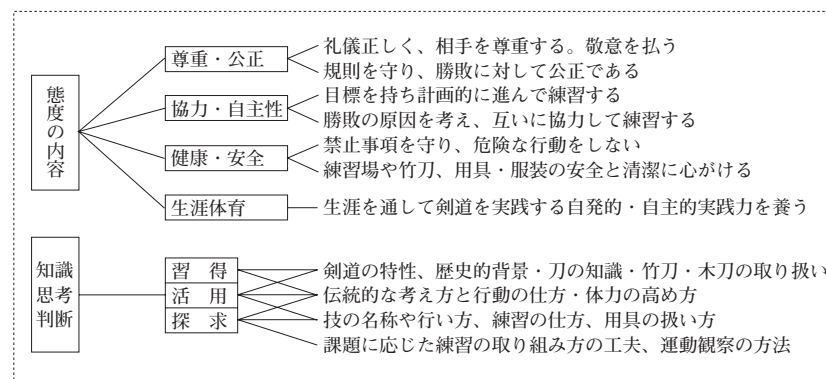


(資料1) 学習内容の取り扱い (教本 p.6)

(1) 技能構造



(2) 態度・知識



(1) 学習の順序

資料1のとおり、教本では技能を「基本動作」「対人的技能」「攻防の展開」に分けて学習内容の説明をしている。では、どのよ

「技能」

2

動作から、攻防の展開につながるものが出来る技の習得に焦点を当てている。具体的には、一足一刀の間から打つことや、相手の隙を素早く打つといったかかり練習などを紹介している。

「整理」では、「(学習の)まとめ」として、竹刀(杖・棒)を使った整理体操の方法や、防具(剣道具)を片付ける方法、学習カードなどを使った活動の評価方法などを掲載している。

それでは、教本の具体的な内容と活用のポイントを「技能」「態度」「知識、思考・判断」の項目ごとに述べてみたい。

「知識、思考・判断」に分けて掲載している。またさらに、この3項目を細分化し、学習内容の体系化を図っている(資料1)。

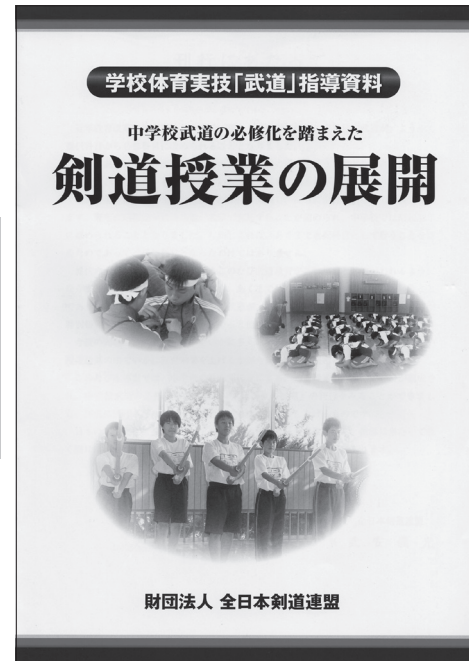
(2) 学習過程 (学習の流れ)

学習過程については、一時間

の学習の流れを、「導入」「展開」「整理」に分けて掲載している。「導入」では「学習への意欲化や心構えをつくる」として、防具(剣道具)の用意・着装・安全点検、礼の実践などを示している。礼については、学習指導

要領解説にも記載されているとおり、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとすることを学ぶ点でも、重要な指導内容である。

「展開」では、「技を知る、練習する、確かめる」として、基本



財団法人 全日本剣道連盟
全日本剣道連盟発行『剣道授業の展開』
(A 4判、107頁)

学習内容の体系化

1

(1) 学習内容の取り扱い

教本では、まず、平成20年3月改訂の学習指導要領を抜粋し

先月号では、全日本剣道連盟が発行した指導教本『剣道授業の展開』(以下、教本)の作成経緯について述べた。また、作成の基本方針を確認しながら、現時点での頒布状況も紹介した。

今月号では、教本の具体的な内容に触れながら、実際に教育現場でどのように活用すればいいのか、そのポイントを述べてみたい。

(財)全日本剣道連盟

武道指導資料作成部会委員

軽米 満世

指導教本のねらいと活用のポイント 剣道 ②

シリーズ 中学校武道 授業の充実に向けて 39

(資料2) 武道的素養となる遊びの体験「サムライごっこ」(教本 p.13)

体験例	方 法	上達のポイント
体験1 どんぴしゃり 	・木刀や竹刀を使ってボールの中心を打つ ①床に置いたボールを打つ ②トスされたボールを打つ	・手の内の作用が分かる ・刃筋正しく打てる ・正中線を外さず打てる
体験2 剣道ごっこ 	・ソフト剣を使って打ち合う ①生徒の学習段階に応じて試合時間を変えてみる	・積極的に技を出し打てる ・打突の機会を知る ・四戒「驚懼疑惑」を克服する ・剣道の動きに近い体験をする
体験3 試し切り 	・木刀や竹刀を使って新聞を切る ①2人で新聞を持つ ②上から切る ③一人2回ずつ挑戦する	・手の内の作用が分かる ・刃筋正しく打てる ・正中線を外さず打てる
体験4 手 刀 	・両手合掌の状態から各打突部位を確かめる ①示された部位を打つ	・上下、斜め振りの要領が分かる ・刃筋正しく打てる ・正中線を外さず打てる
体験5 点と線 	・木刀や竹刀を使って、トスアップされた新聞玉を打つ ①一人3回ずつ挑戦する	・手の内の作用が分かる ・出ばな技の起こりを捉えられる ・踏み込み足、左足の引きつけの要領が分かる

うな順序で学習を進めればよいのか。最も簡略化すると左記の通りとなる。技能指導の基本として把握していただきたい。

①基本動作を身に付ける

②基本となる技や得意な技を練習(かかり練習・約束練習・自由練習)で練り上げる

③自由練習やごく簡単な試合で攻防の楽しさを味わう

④基本動作については、対人的技能を成立させる要素的なものとして重視しているのでしっかりと身に付け、②、③へとつなげたい。

その他、基本動作を行う前などには、体ほぐしの運動を取り入れたい。手軽な運動や律動的な運動を通して、自分や仲間の体の状態に気づいたり、体の調子を整えたり、仲間と交流を深める効果がある。導入時に体を動かす楽しさや心地よさを味わわせながら学習を進めていくことは、健康・安全の確保や剣道授業への意欲を高める一助となる。

具体例としては、方向や速さを変化させながら行う体さばきや、手刀等での上下振り・斜め振りなどの運動が挙げられる。

また、体ほぐし運動は、ペアで行うことが出来る。対人性を感じさせ、仲間との信頼関係を深めつつ、剣道授業の主運動へつなげる効果がある。教本の展開例で示した導入部分で取り入れたい。



導入部では、体ほぐしの運動を取り入れたい

(2) 技の段階的指導

筆者が行った生徒の実態調査では、剣道の授業に対して、痛い、怖い感じがする等のマイナスイメージを持つ者がいることが分かった。これは打つ・打たれる体験がないことから感じられるものと思われる。実際に、授業では打つ動作で躊躇したり、打たせる動作で目を閉じたり首を縮めたりすることがある。指導者は、このような生徒の実態から不安を解消する手だてを考えなければならない。

その一つとして挙げられるのが、段階的指導である。

剣道の初心者に対する動作・技の段階的な指導は、「近い間合から遠い間合いへ」「容易・簡単な動きから困難・複雑な動きへ」「ゆつくり大きな動きから小さく素速い動きへ」「既習の技から新しい技へ」と、行うのが一般的である。このように段階的に発展させる指導を行うことにより、無理なく安全に技能の向上を図ることが出来る。

(3) 基本動作

剣道の学習において適切な指導がなされるか否かは、指導を受ける生徒の技能の向上や人格の形成に大きく影響してくる。指導者は常に基本動作の内容を念頭におきながら、柔軟な発想や考え方により興味・関心を持たせる指導の工夫を心がけたい。もっとも、最初から剣道の動きを学習させようとするのではなく、はじめは剣道に類似した運動をゲーム化して取り組ませることも良いと考える。教本ではその例として「武道的素養となる遊びの体験(サムライごっこ)」を紹介している(資料2)。

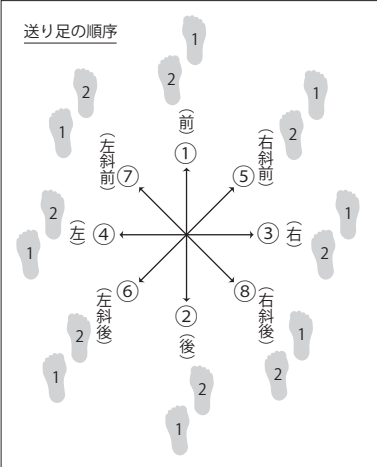
学習の始めにこれらの打つ動作や体さばき・踏み込み動作・手刀の攻防などの動きを取り入れ、基本動作の習得につなげたい。

(4) 対人的技能

対人的技能については、しか

2011. 7 月刊「武道」

(資料3) 対人的技能向上の基礎となる運動の実践例

名 称	目的と要領
集中と反射 	・剣道に必要な敏捷性を高める。 ①生徒は、その場で小刻みに足を踏んで「ヤー」の発声をしながら、教師の指示を集中して待つ。 ②教師は手で上下左右を示す。 ③生徒は教師の指示に、目を離さず素速く反応する。 (上・ジャンプ、下・しゃがむ、左右・その方向に腰を向ける。20秒)
体さばき (足さばき) 	・気剣体一致の打突の基本的動きを身につける。 ①前進後退・左右・斜めの動き (下図参照) を足・手刀・竹刀の順番で行う。 ②前進後退・左右を2人組で正対し、竹刀打ち前進後退面・小手・胴・左右面打ちの動作を、発声を伴い行う。 ③リズムカルな曲・太鼓・笛等の音に合わせてもよい。 
すり足・踏み込み (手刀) 	・気剣体一致の打突の基本的動きを身に付ける。 ①手刀で構えて、スピードのあるすり足を行う (前進・後退)。 ②すり足やスキップから踏み切り動作で踏み込む (面・小手・胴・小手→面・小手→胴 他)。
手刀の攻防 	・自分の考えた技で攻防を楽しむ。 ①ぶつからない距離で教師と正対し手刀をつくる。教師の技に対して素速く反応し、発声とともに任意の技を出す。(30秒) ②回数を増すごとに技を複雑にしていく。構え、足さばき、体さばき、目付、攻め、気迫のこもった発声、残心等指導内容を発展させていく。



剣道は、攻防により勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことの出来る運動である

に学んだら良いのかを示した。指導にあたっては、有効打突の条件などにも留意したい。また、

攻防の楽しさが経験できるよう、「攻め」の気持ちを重視し、しか

もちろん、剣道の醍醐味である攻防の楽しさを体験し、対人的技能を高めるためには、まず基本動作である構え(自然体・中段の構え)・体さばき・目付等を、正しく身に付ける必要がある。教本にはないが、こうした課題をもとに、初めて剣道を行う生徒を対象にした、対人的技能向上の基礎となる運動の実践例を紹介する(資料3)。

(5) 攻防の展開

剣道は、現在の中学生にとって幼少年期に遊びとして経験したことのない、非日常的な動きが多い。したがって、その動作に慣れるため、基本動作を繰り返し指導する必要がある。しかし、そればかりだと生徒は飽きてしまい、授業に対する興味まで失いかねない。そこで考えたのが「攻防の展開」を楽しむということである。剣道の持つ楽しさ、面白さを伝えるためにも是非、工夫して学ばせたい内容である。

学習指導要領解説でも、武道は「相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことの出来る運動である」とされている。また、「相手を尊重して練習や試合が出来るようにすることを重視する運動である」とあり、学習の中で相手を尊重しながら、試合などの攻防を行うことが出来る領域であると示されている。授業では、様々な変化の中で相手の動きに対応し、有効打突を決める喜びを味わわせることに、指導の重点を置きたい。生徒が練習した技を試す、つまり確かめる機会を与えるためにも、是非取り入れた指導内容である。

教本では、剣道のおもしろさ、楽しさを味わわせる試合方法の工夫として、学習指導要領解説に示されている「ごく簡単な試合」の例をいくつか示している。ここでは、基本試合による判定試合、有効打率試合(各判定基準に気・剣・体の項目を設けて

いる)、ポイント制の試合を紹介したい。

(ア) 基本試合による判定試合
3人1組になり、リーグ戦(二人が交代で審判)で基本動作の出来栄えを判定する試合を行う。基本がいかにかに正しく身に付いているか、判定基準に従って、互いに評価し合う(判定基準は段階を追って示していく)。

審判はどことがよかったのか、どうすればよいのかを相互評価させ、技を確かめさせる。これにより、有効打突の理解をより深めることが出来る。

▽判定基準

気：気迫のある発声。

剣：打突部で打突部位を捉える。

体：足の出・体の出と残心。

▽学年ごとに定める判定基準

1 学年は、大きな声で、面・小手・胴を打突部で打てる。

2 学年は、大きな声で、面・小手・胴を打突部で正確に打てる。

3 学年は、大きな声で、面・小手・胴を打突部で正確に打ち、

腰が入って前に進み、残心が取れる。

(イ) 有効打率試合

野球選手の打率のように何打数何安打といった「有効打率試合」を行う。4人1組で、打つ打たせる生徒のほか、判定する生徒と、有効打突を数える生徒に分かれ、一人一役の役割分担で行う。決められた本数・技を行い、有効打率の高い方を勝ちとする。生徒同士で評価をさせ、有効打突のタイミングとその条件を理解する。

▽判定基準

気：打突部位を大きく明確に発声する。

剣：打突部位を竹刀の打突部で確実に捉える。

体：後足の引き付けを伴った足の出や体の出が時間的に一致する。

(ウ) ポイント制の試合

既習の技や本時学習した技で、有効打突を時間内に何本取れるか競う。

◇
ここで⑥について、補足説明を行いたい。

保健体育の授業は、学校教育の中で唯一体を鍛える教科である。また、学習を通して体力の向上が図られるとともに、出来ない技が出来るようになるなど、仲間と協力し合い、苦しい練習を乗り越えることで感動を味わえる教科でもある。保健体育はまさに「生きる力」と直結した教科と考えられる。

学習指導要領における保健体育の目標は、中学1・2学年では「運動を適切に行うことによ

試合の楽しさを体感するのに適している。審判が2人または3人、試合者が2人の、計4人、5人1組でリーグ戦を行う。また、試合時間は45秒・判定・交代を15秒で行う。

判定や相互評価の内容も、日増しにレベルを上げ、「打った」「打たれた」から「積極的な攻め」や「残心」など、より深い試合



ポイント制試合の様子

内容に触れられるようにする。両者ポイントが同じ場合は、試合中に大きな声や積極的な攻めがあった方を勝ちとする。

(6) 技能指導の留意点

学習過程の中で生徒の実態を踏まえ、課題に応じた学習の取り組み方を工夫することや、個々の能力やつまずきに配慮し指導することはとても重要である。

また、状況に応じた適切な言葉掛けや、段階的指導の導入は生徒の意欲化につながる。以下に技能指導の留意点をまとめたので、教本とともに参考にしたい。

- ① 打ち方の指導効果を上げるために、節度のある隙を与える受け方を徹底させる。
- ② 相手との間合(距離)に注意し、打突の起こりを捉え、相手を怖がらずに打たせる。
- ③ 習熟度に応じたやや実践的なパターン練習や反復練習を徹底させる。
- ④ 学習集団の編成については、

▽敏捷性

・スピードのある足さばき、体さばきで移動や方向転換をする(中段に構えた姿勢でバランス感覚を保ちながら)。

▽巧緻性

・状況に応じて体を思い通りに動かす。

・スムーズに動き、攻防を展開する。

▽瞬発力

・跳躍による早素振りを行う。
・かかり練習や約束練習などにより、力強い踏み込み動作や素速い打ち込み、そして残心までの一連の動きを行う。

「日本教育新聞」購読者特典

QA 教育を応援するコミュニケーションサイト

先生解決ネット

*日本教育新聞社の運営サイトです。

N 日本教育新聞社

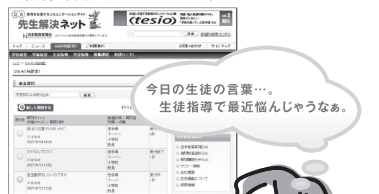
“先生方をもっと応援していこう!”

を合言葉に、オープンした
ホームページが「先生解決ネット」。

Communication

教育専門 Q&A

先生方が日頃抱いている疑問や課題を、全国の「同僚」と共有し、知恵を出し合いながら答えが導けるように、応援するための教育専門 Q&A サイトです。



今日の生徒の言葉...
生徒指導で最近悩んじゃうなあ。



Archive & Search

教育専門 ニュース

新聞を通して得た情報を、必要なときに引き出し、より日常にご活用できるように、応援するための教育専門 ニュースサイトです。



イラストレーション: 石ノ森章太郎

アクセスはこちらから
www.kyoiku-press.com

「態度」 「知識、思考・判断」

(1) 武道・剣道の特性から学ぶ
礼法

「相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする」態度の育成、礼法指導について、教本では写真を交えて、その実践方法を解説している。本稿では、武道、そして剣道の特性という観点から、礼の意味とその指導法を示してみたい。

武道では、道という文化性があり、相手に感謝したり、相手を尊重して気持ちを込めて礼を行うことを大切にしている。もちろん、ただ形式的なものではなく、「なぜそうするのか」「なぜそうなるのか」を理解した上で行うものである。実際には、このような実践を繰り返す中で、礼法が無意識のうちに自分のものとなっていく。授業でもそのようなように指導したい。

剣道では、相手の人格を尊重し、互いに打つ・打たれる等の攻防の展開の中で有効打突を目指し、楽しさを味わうという特性がある。また、学び合いの中で、身体を鍛え、技を錬磨し、心を養うためのよき協力者、仲間を作ることが出来る。心から尊敬の念を持ち、仲間に対し、端正な姿勢をもって礼儀正しくすることは、よりよい剣道を築きあげていく上で大切なことであり、ひいては好ましい社会的態度の育成につながる。授業ではこのことを気づかせたい。

(2) 日常生活の礼から学ぶ

教本では、「伝統的な行動の仕方を守る礼法指導」としてまとめている。礼法を指導する際には、まず、教え育んでくれる先生への礼、お互いに学び高め合う仲間への礼、学習の場に対する礼を行わせたい。そして、対人技能の習得を目指しながら、「礼にはじまり、礼を尽くして行い、礼に終わる」ということを

自然に理解できるようにしたい。

そのためには、まず日常生活の中で経験している礼を意識させるとよい。例えば、家庭の中で「おはよう」「行ってきます」「おやすみ」等、家族と何気なく交わしている挨拶である。他にも、学校生活における、授業の始まりと終わりの礼、入学式・卒業式などで行われる儀式での礼がある。なぜこれらの場面で礼が必要とされているのかを考えさ



礼法指導の様子

せ、授業での礼の実践へとつなげたい。

(3) 座礼・目付の指導

座礼については、日常的にはあまり行われていないので、教師自らが模範を示しながら教える必要がある。それぞれ、場所や目的に応じて礼の行い方が違うことは今までの経験から理解できるだろうが、座礼の経験は家庭により異なり、仏事やお正



知識の定着と興味付けの一例。近隣の博物館から鎧を借りて紹介

月等に行う程度というのがほとんどである。教本では立礼と座礼を指導するよう示しているが、特に座礼については、この点を踏まえながら、「左座右起」なども含め、しっかりと伝えたい。

目付については、どこを見て、誰に対して、どんな気持ちで行うのかを留意し、指導をするところが大切である。目付を意識させ、丁寧で端正な心のこもった礼の指導を心掛けたい。

(4) 相手を尊重する・自分を自分で律する態度を学ぶ

試合の学習で相手に勝ったり

勝てたのは相手をしてくれた者がいたからであり、負けて自分の足りないところを知ることが出来たのも、相手のおかげである。生徒にとって、相手を尊重して礼を行う意味が、身をもつて理解できる学習場面でもある。

(5) 基礎知識習得の指導
剣道は、我が国固有の伝統と文化を継承している特有の運動である。また、防具を着けた、相対する二人が竹刀を用いて攻防しあい、面・小手・胴などの有効打突を競う格闘的スポーツでもある。

しかし、剣道で使う用語は日常的に用いられないものが多いので、教育現場では学習資料を多く取り入れながら、優しい言葉で分かりやすく伝える工夫をしたい。

また、導入段階では剣道授業における楽しい動機付けの一貫

として剣道に関する歴史を学ばせたい。例えば、剣道につながる刀を扱う文化が古くからあったことを理解させるため、武士社会のルーツや、地域に縁のある武将を紹介すると、剣道をより身近に感じることが出来る。他にも、刀や鎧を用意して展示したり、世界各地における剣道の普及状況なども伝えたい。

教本ではイラストを多く用いた学習資料を巻末に加えている。コピーしてすぐに使えるものになっているので、是非活用して基礎知識習得の指導を行っていただきたい。

武道・武術の秘伝に迫る!
月刊秘伝
定価990円(税込) 6月14日発売!!

人が備えた、最小かつ最高の武技 “突き”の極み

- 第一部 異能の空手家「江上茂」
一打必倒の突きとは何か?
- 第二部 高速度カメラがとらえた
驚異なる“瞬撃” 横山和正
- コラム 突き一千万本を求めて
松田隆智の突きを巡る旅



特別企画

■“技術”は“力”を凌駕する! 上田毅
柳沢流護身術「短棒術指南」

■整体とヨガを結ぶ“心身一元論”
対談 金井省蒼×友永淳子

■荻田雅広“関節の遊び”で動きの質を変える
JPバランス療法

■中国武術“大博覧会”!
第10回渋谷区民太極拳大会

■松原秀樹 100%動ききるための調整術
“合気の応用／可能性”

■身体能力を飛躍的にアップさせる新ボディワーク
武道家必見! “PNF”とは何か?!

■戦後柔道界の生き証人が“撮った!” 達人たち
ハル・シャープと伝説の柔道家たち

■塩坂洋一×保江邦夫 第5回返信・塩坂編①
“合気”探求書簡問答

■横山雅始の門同流兵法捕手柔術から探る
“敵即制圧”極意の研究

連載

DSで解く!高岡英夫の“人類遺産”/奥山龍峰「八光流柔術“心的作用”に迫る」/山口香「現代柔道へ“活”」/新名玉堂「無外流明思派居合兵道入門」/長沼敬應「秘伝生命米養生」/武術秘伝書夢世界/増田俊也「七帯柔道記」/黒田鉄山「直間直答」鉄山に訊け/天野敏「組手、ときどき波」/日野晃「武道者徒歩記」/その他、豪華連載!

(株)BAB ジャパン出版局

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚1-30-11 中村ビル
TEL03-3469-0135 FAX03-3469-0162
秘伝ホームページ <http://www.bab.co.jp/hidden/>

4 単元計画

教本では単元計画を、「防具（剣道具）使用の場合」と「防具（剣道具）のない場合（木刀・竹刀を使用する）」として分けて説明している。また、学年ごとにテーマ

を設け、第1学年「初めての剣道体験」、第2学年「剣道の楽しさを知る」、第3学年「剣道の攻防の楽しさを知る」としている。

内容は、「学習過程」「学習と指導・評価」「展開例」の項目を立てて、説明している。

「学習過程」では、各学年で剣道の授業が年間13時間行われることを想定し、1～13時間目ま

でどのような流れで授業を展開すればいいのか、表にまとめている。また、「学習と指導・評価」では、学習のねらいと指導・評価のポイントを一覧にしている。

巻末に自己評価資料を加えているので、併せて使用していただきたい。「展開例」では、1学年の例のみだが、具体的にどのようなことを授業で学ぶのか、時間ごとに指導内容を示している。また、外部指導者の協力を想定して、担当教師（T1）と指導協力者（T2）、それぞれの指導上の留意点をまとめている。

他にも、「つまずきと指導」として、生徒がつまずきやすい場面と、それに対する効果的な指導方法を、写真を多く使用して説明している。

教本 p.33「つまずきと指導」。写真を用いてわかりやすく説明している



5

おわりに

このように、充実した授業が展開できるよう、教本では様々な項目を立てて指導内容を説明している。繰り返しになるが、図資料を多く用い、視覚的にもわかりやすく作成されているので、剣道初心者の教員にも理解できるものとなっている。

本稿では、実際にどのような流れで、そしてどのような意図で授業を展開すればいいのかを述べてみた。先月号と併せてご覧いただければ、教本の概要と活用のポイントが理解できると思う。もちろん現場では、これらの内容をもとに、各学校の実態や諸条件を勘案し、創意工夫を加えた指導を行ってほしい。

各教員、指導協力者が自信を持って剣道を正しく指導できるための資料として、広く活用されることを心より願っている。